

# 健康フラガ

## 平成20年3月号

医療法人将優会 クリニックうしたに  
理事長・院長 牛谷義秀

### 「咬傷(咬まれた傷) — ネコとイヌ、どちらが怖い？」

ネコによる咬傷はイヌに比べれば大したことはないと思われがちですが、ネコの方が重篤な感染症に発展し、治療に難渋したり、まれに手術が必要になることがあります。イヌに比べて、ネコの歯は細くて鋭いために咬まれてしまうと傷が深くなるばかりか、感染症を引き起こすパストレラ菌がネコの方に多く存在するために、一般にネコの咬傷による感染症の合併率はイヌの場合よりも高い上に重症化しやすく、また発症までの期間は平均 12 時間くらいでイヌより短いといわれています。

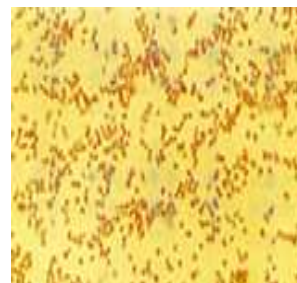
#### 1. パストレラ症はペットと人間に共通の病気・・・「人畜共通感染症」

ペットブームや住まい環境の変化にともなってパストレラ症という病気が増えてきています。これはおもにイヌやネコから感染する、ペットと人間に共通の病気である「人畜共通感染症」です。国の調査によれば、パストレラ症を引き起こすパストレラ菌はネコの口の中に約 97%、ネコの爪の間に 20%、またイヌの口の中に約 75%いるといわれています。他の感染症にはないほど高い保有率のため、ペットオーナーが最も注意しなければならない感染症です。イヌやネコにとっては何の症状も引き起こさないパストレラ菌は、人間の体の中に入って感染して初めて発症します。高齢者、糖尿病患者など、抵抗力が弱い人での発症が多く見られています。

パストレラ菌はネコやイヌのほか、野生動物や鳥類にも寄生しています。

#### 1. 病原体

パストレラ属菌に属する、代表菌種の *Pasteurella multocida* のほか、*P. canis*、*P. dagmatis*、および *P. stomatis* の 4 種が起因菌として確認されています。



パストレラ菌

#### 2. パストレラ菌の性状

パストレラ菌は **グラム陰性** (グラム染色という方法で細菌を染色した時に染まらないもので、陽性か陰性かによって菌の性格や構造が異なり、菌を殺す抗生物質など薬剤が違ってくる) の **短桿菌**

(細菌はその形状で桿菌【ぺしゃんこな形をしている細菌】、球菌【文字通り球形をしている細菌】、らせん菌【らせん状の形をしている細菌】の3つに分類される)です。パストツレ菌は、その形がぺしゃんこで、かつ短い細菌であるということになります。

## 2. パストツレ菌の感染経路

ネコやイヌに咬まれたり、爪で引っ掻かれたりした傷から直接感染したり、またなめられたり、口移しなどで餌を与えるなど濃厚な接触による経口感染がおもな感染経路です。しかしながら、細菌がほこりなどに混じり、空気中に漂っている菌を吸い込んで感染する間接的な飛沫感染もまれに見られます。

## 3. パストツレ症の症状

咬まれた傷口や引っ掻かれた傷口での創傷感染と、風邪のような症状が見られる呼吸器感染がパストツレ症のおもな症状です。

### 1) 皮膚症状(パストツレ症の約 30%を占める)

ネコやイヌに咬まれたり、引っ掻かれたりした後、多くは約 30 分～数時間後に咬まれたり、引っ掻かれた傷口が赤くなる(発赤)、腫れる(腫脹)、ひどく痛む(疼痛)、化膿する、などの局所の症状のみですが、さらに蜂窩織炎(皮下脂肪組織に及び、広範な発赤、腫脹、圧痛、発熱、リンパ節腫脹をと~~もなう~~)となることが多く、傷が深い場合や免疫不全などの基礎疾患がある場合は重症化し、骨髓炎、敗血症となることもあります。



咬傷の炎症所見

### 2) 呼吸器症状(パストツレ症の約 60%を占める)

最近、室内でペットを飼うペットオーナーが増えています。ペットとの接触機会が増えるとともに、気道感染の患者が目だって増えています。咬み傷や引っ掻き傷のほか、気道を介しても感染します。咳など軽い風邪のような上気道炎症状(鼻腔～咽頭～喉頭～気管の炎症)や副鼻腔炎から、重症な肺炎までみられます。感染しても誰もが発症するわけではありませんが、幼児や高齢者、あるいは喘息、結核、悪性腫瘍など何らかの基礎疾患がある場合や免疫力の低下している人などが発症しやすく、繰り返すことが多いといわれています。また放置していると骨髓炎、腹膜炎、肺炎から敗血症を引き起こしたり、髄膜炎など重い病気に発展する恐れもあり、さらには死亡することもあります。

また咬まれる場所で最も頻度が高いのは手ですが、手を咬まれた場合が最も感染症を発症しやすく重症になりがちといわれており、注意が必要です。

## 4. パストツレ症の治療法

まずは咬まれた傷口をよく洗い流し、医療機関でみてもらいましょう。幸い、ペニシリン系、セフェム

系の抗生物質での治療効果が高いため、重症化することはなく、ほとんどが治ります。ネコによる咬傷の場合は感染の合併率が高く重症化しやすいので、発症していなくても予防的に抗生剤の投与を受けておいた方が安心です。

## 5. パストツレラ症の予防

ストレス社会ともいわれる現代社会ではペットとじゃれあうのも大切な癒しの時間といえましょう。ペットは今や、「コンパニオン・アニマル」とも呼ばれるほど私たちの暮らしに欠かせないものになってきました。しかし、その陰でペットから人間にうつるペット感染症である、「パストツレラ症」がじわじわ広がってきており、最近では非常に身近な感染症となっています。

パストツレラ症を防ぐためには過度の接触は禁物といえます。

1. 口移しで食べ物をやらない
2. 人間の食器から食べ物を与えない
3. ペットを触ったり、糞の世話をしたあとは手をよく洗う
4. ペットを清潔に保つ(歯磨きの習慣をつけておく)
5. ネコのつめはまめに切る
6. 寝室に入れるのを控える
7. 飼育環境を清潔に保つ(ネコの飲み水からもパストツレラ菌は検出されています)
8. 温厚な性格に育てる
9. かかりつけの医師にペットを飼っていることを伝えておく

いくら家族の一員のようにかわいいからと言っても動物との過度な接触をしないように心がけることが大切です。一見健康そうなネコやイヌがパストツレラ菌を持っていても、その多くは症状を出すことはないので注意しましょう。

## 6. 最後に

パストツレラ症を知らない医師もまだ多いとの指摘もあるほど、今までこの感染症の存在はほとんど知られていませんでした。医療機関を受診する時には、「〇月〇日の〇時頃にネコに咬まれ、その〇時間後に、傷口が痛くなり赤く腫れ出した」とはっきり伝えましょう。

今後この病気はますます増加すると予測されています。ペットを飼う前に、このような病気やしつけのことを勉強して、ペットとの適度な距離を保ちながら楽しいペットライフを過ごすのが賢明といえるかも知れません。